

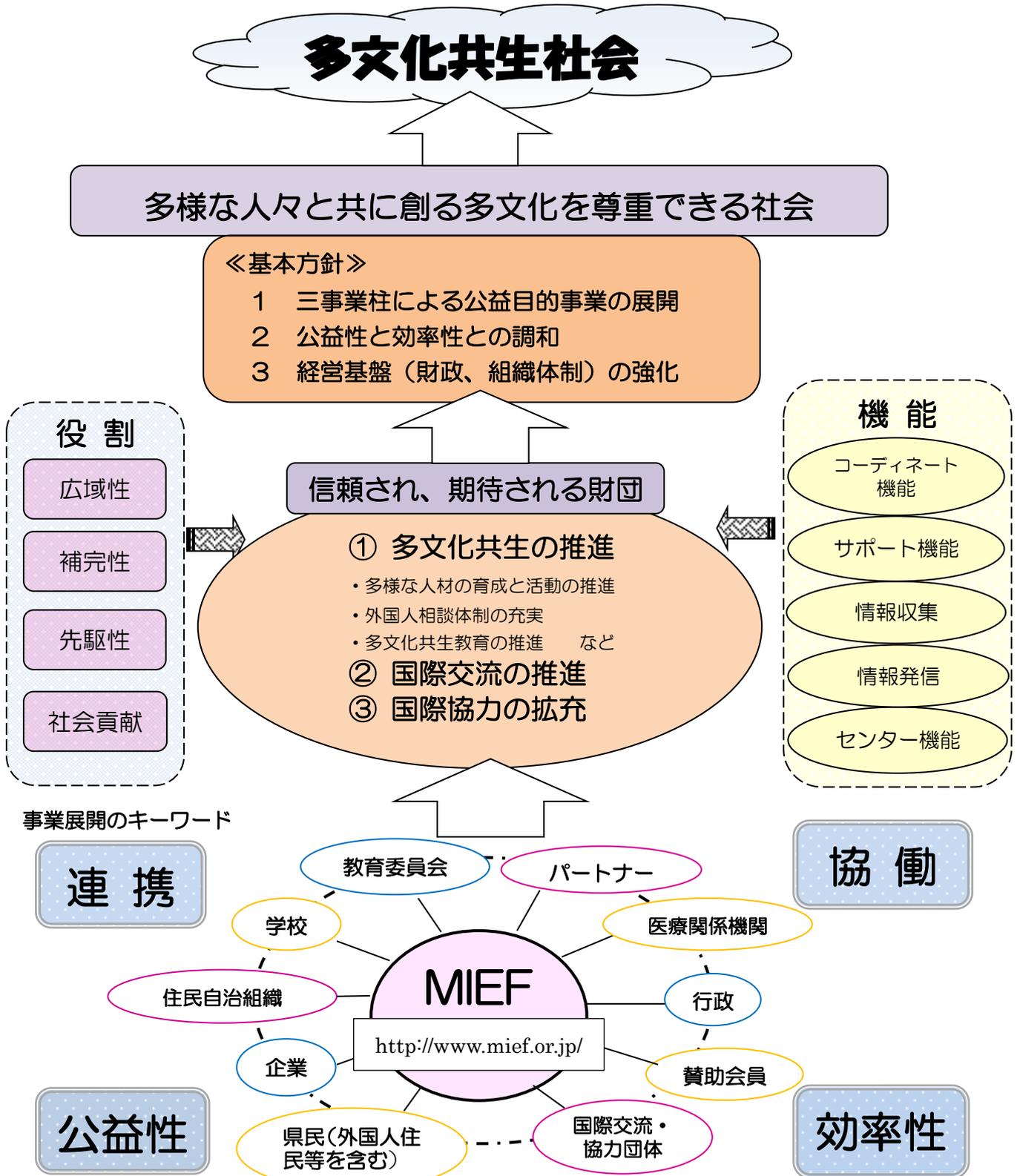
【事例発表】

団体名：公益財団法人三重県国際交流財団（MIEF: みえふ）

☎：059-223-5006 / FAX：059-223-5007 / E-mail: mief@mief.or.jp

＜団体紹介＞

公益財団法人三重県国際交流財団（以下、MIEF）は、1991年、三重県や市町村、民間団体の協力により設立され、2004年に三重県国際教育協会と統合されました。三重県および県内市町や社会福祉法人の委託、もしくは自主財源を基盤に、毎年様々な事業の企画・実施を行っています。



事業実施概要

事業名称	外国につながりをもつ親子のための日本語教育支援プロジェクト	
地域の課題	三重県では、外国人住民の定住・永住化傾向に伴い、外国人児童・生徒の数も増加している。教育現場では様々な課題が挙げられる中、スムーズな日本語習得や良好な親子関係を構築するために、日本語だけではなく、母語能力の重要性も注目されるようになってきた。しかし、外国人住民の家庭においては、母語の大切さについてあまり認識されておらず、母語と日本語両方の育成を目指した地域における取組も少ない。	
事業の目的	外国につながりをもつ子どもたち、およびその親の日本語習得と、そのために重要な母語保持支援を目的として、(取組1)親が子どもたちに絵本を読み聞かせる日本語クラスを実施し、さらに、(取組2)家庭や教育機関でも同様の活動を実践できるような教材を作成し、県内の対象となる機関や家庭に配布する。各取組を通して、親の言語教育に対する関心を高め、家庭における日本語と母語の教育環境を整備することを目指す。	
事業内容	取組1	
	名称	親と子のおはなし教室
	目的	外国につながりをもつ親子を対象に絵本の読み聞かせを行う教室を設定し、子どもたちには①日本語と母語の両方に触れられる機会を与え、同時に異文化に対する理解を促す。親には②子ども向け絵本の読解と翻訳作業を通して、日本語能力の向上と日本文化の理解を目的とした活動を行う。そして、言語教育についての意識と関心を高める。また、外国につながる子どもたちが多く集まる機会を活用し、2言語以上による絵本の読み聞かせの会(以下、「多言語おはなし会」とする)を行い、日本語と母語に親しんでもらう。
	内容	★「親と子のおはなし教室」 ①子どもクラスでは、参加する子どもたちの強い言語に応じて毎回内容を工夫し、たくさんの日本語と母語(またはルーツがある言語)に触れる機会を与えた。絵本の読み聞かせや歌、工作、ゲーム、劇など様々な活動を行った。②親クラスでは、自国あるいは日本の絵本の読解および翻訳作業を通して日本語を学び、さらにその絵本を2言語以上で子どもたちに読み聞かせた。 ★「多言語おはなし会」 県内の初期日本語指導教室や外国人住民のコミュニティの集会等を利用して、絵本の読み聞かせを行った。※「多言語おはなし会」は基本的に子どものみを対象とした。
	対象	主にフィリピンおよびブラジル(その他中南米地域を含む)につながりをもつ親子
	時間	総時間数 66 時間 (全 34 回)
	人数	総数 125 人
	取組2	
	名称	「親と子のおはなしハンドブック」制作
	目的	取組1での実践と成果を活かして、同様の活動が家庭や関連する機関でも手軽にできるようなハンドブックを作成する。
内容	ハンドブック作成の目的、読み聞かせの方法とオリジナル絵本を掲載。絵本は外国人の母親が苦勞すると言われる「お弁当」を題材とし、擬音語・擬態語を多く取り入れた内容。	
成果と課題	参加者には本事業の目的がしっかりと伝わり、また絵本を活用することで、親子で楽しく学べる新しい形の日本語学習を提案できたと思われる。今後は読み聞かせに使えるリソースを増やして周知していくことと、活動拠点を定めてどのように事業を継続させていくかが課題である。	
参加者の皆様へ一言	ハンドブックは、日本語とポルトガル語・タガログ語の他にローマ字表記もあり、紙芝居形式で読み聞かせできるように工夫しています。ぜひ1度お手にとってみてください!!	